

大震災・復興ニュース（第4報）

平成23年5月12日
仙台地方振興事務所水産漁港部

1 水産業復旧・復興に向けた対応状況（国及び県全体の動き）

放射能の海洋モニタリング広域調査について

文部科学省科学技術・学術政策局と原子力安全課防災環境対策室によると5月8日から、「海洋環境放射能総合評価事業」により、宮城県、福島県、茨城県の沖合に12ライン（各ライン毎に3~4の測定点を設置）を設定し、毎月2回、海水（表層、中層、下層）と海底土の放射性物質検査を実施すること。宮城県には、雄勝沖（3点）と亘理沖（4点）に調査ラインが設定されている。

分析結果は、月2回の頻度で文部省から発表される。（詳しくは、文部科学省ホームページ参照のこと）

漁業者グループが行う漂流物の回収について

県漁協、塩釜市漁協、牡鹿漁協では、5月1日から漁業者グループによる漁場のガレキを撤去する水産庁の基金事業を実施している。県内の4,500人の漁業者が参加している。

なお、基金事業終了後は、引き続き国の一次補正予算を活用し、県補助事業として同様の事業を実施予定。（予算規模約30億円）



宮戸室浜地区での作業風景

2 管内の復興に向けた動き

<水産漁港部からのお知らせ>

県管理漁港の啓開(けいかい)作業状況（担当：漁港漁場班，水産振興班）

- ・ 県管理漁港の航路・泊地内の漁具や沈没した船舶・自動車等支障物の撤去作業については、閉上漁港で5月6日から着手し5月13日までの完了を目指し作業を実施している。
- ・ 荒浜漁港は5月9日から作業に着手しているが、泊地内への支障物が多いことから作業完了は5月末の見込みである。
- ・ 磯崎漁港については4月に航路の支障物撤去に着手したが、水深が浅いため別途作業船を手配中であり船舶の手配が完了次第再開する予定となっている。

- ・桂島漁港は、定期船航路確保のための支障物撤去作業は完了しているが未着手であった泊地内の確認測量が完了したことから、現在作業船を手配している。
- ・漁場の啓開作業は、東華建設が行うこととなった。現在、海上保安部への作業手続きを行っており、早期に着手出来るよう準備を進めている。

港の応急復旧状況（担当：漁港漁場班）

- ・塩釜漁港魚市場のエプロン補修は、5月末に完了する予定である。また、臨港道路については歩行者等の安全確保のため、津波で流出した側溝蓋の設置等を5月中旬に実施することとしている。
- ・荒浜漁港の海岸堤防の応急工事については、阿武隈川河口から南側約900m区間を1次応急工事として大型土のうによる仮締切堤を4月27日から着工し、6月末までには完了する予定である。
- ・荒浜漁港の応急工事については、船揚場の補修を5月6日に着手し5月7日に完了した。また、緑地沿いの臨港道路他のガレキ処理は、5月11日から着手し20日に完了を予定している。
- ・桂島漁港内の休憩施設にあるトイレについては、地元の協力で女子トイレについては暫定的に使用可能な状態となっているが、機器等の損壊が確認されたことから早急に復旧できるよう現在発注の手続きを行っている。

災害調査について（担当：漁港漁場班）

- ・管内漁港施設の被災調査結果については下記のとおりとなっており、災害査定の日程等については、今後水産庁や東北財務局と調整し決定することとなる。

区 分	漁港施設	漁港用地等	海岸施設	計
県営漁港	386億円	12億円	38億円	436億円
市町営漁港	97億円	4億円	25億円	126億円
計	483億円	16億円	63億円	562億円

（H23.5.9現在）

<トピックス>

沖合底曳き網漁船が塩釜魚市場へ初水揚げ

4月27日に主要漁場のスケトウダラ等6種類について東北大学の放射性物質検査結果を受けて、5月7日から13隻（うち塩釜所属船7隻）が約2ヶ月振りに操業を再開、5月9日に塩釜魚市場に水揚げした。

水揚げは、沖八モ、キチジ、ホンダガレイ等で約73トンで約14百万円となった。水揚げ物は鮮魚・冷凍・加工原魚となる。

うらと海の子再生プロジェクト始まる（塩釜市浦戸支所）

浦戸諸島ではノリ、カキの養殖が盛んに行われていたが、大震災により養殖施設や設備が流出し、大きな被害を受けた。養殖業復興のために県漁協浦戸支所所属の生産者等が「うらと海の子再生プロジェクト事務局」を立ち上げ、一口1万円を支援金として募り、これを主に漁業資材の購入・漁業設備の修繕に充て、海産物が収穫できるようになり次第、支援された方々に海産物を送るという「うらと海の子一口オーナー制度」を設けた。ホームページによる募集に加え、新聞等でも紹介されたことから、北海道から沖縄まで全国各地からの申し込みとなり、また、一人で50口とか100口等の大口もあり、これまでの加入者は約3,000人で4,000口を突破する勢いである。事務局では「支援して頂いた多くの方々に心から感謝しており、一日でも早く漁業を再生していけるよう努力したい。」と言っている。